

## 研究会報告

基研研究会「統計物理学の展開と応用：多様性の中の類似性」

(1993年7月5日受理)

日時 1993年2月17日(水)～19日(金)

場所 京都大学基礎物理学研究所

### 研究会の趣旨

最近多様に展開されている統計物理学のトピックスや応用(相転移・臨界現象の一般化と拡張、非線形現象とその発展方程式、空間構造で特徴づけられた体系、量子多体系の基本的構成と性質、複雑な系。)の中から共通の類似性を探求し、同時に伝統的な手法や概念を新しい視点で再検討し、将来の統計物理学の展開を期待する。

今回、韓国の数名の研究者に参加を呼び掛け日韓合同の形で研究会を行なう。このため各講演は英語で行なう。

### 世話人

守田 徹(東北大工) 和達三樹(東大理) 豊田 正(名商大)  
志波康博(九工大) 徳山道夫(東和大) 田村義保(統数研)  
原 啓明(東北大工)

### 研究会の計画と実施

平成3年2月に基研研究会「新しい統計物理学の基礎：多様性の中の類似性」を行い、平成4年1月に統計数理研究所で「統計物理と統計数理：多様性の中の類似性」という研究会を行なったが、今回の研究会はそれに引き続くものとして行なわれた。

現在、物理学会での統計力学・物性基礎論分科の発表は、いくつかの部屋に分かれて行なわれている。それらに共通した類似性があるのではないかと、そこを知りたいという発想で世話人が集り、始めた研究会である。隣国の韓国にもこの趣旨に賛成する人がいるのではないかとこの意見があり、今回は韓国からの参加を呼び掛けることにした。研究会は日本から20名、韓国から5名が参加して行なわれた。韓国からの参加者を加え、研究会は全て英語でなされた。報告も英文になってしまった。

研究会は多様性の中の類似性を意識して進められた。この研究会の雰囲気は、韓国からの参加者にも感じて貰えたと思っている。統計物理学者の隣国間の交流を進める上でも有意義であったと思っている。

世話人代表 守田 徹